

船舶事故等調査報告書

平成26年10月23日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014仙第41号
事故等種類	運航阻害
発生日時	平成26年6月24日（火） 22時12分ごろ
発生場所	福島県富岡町所在の小良ヶ浜灯台東方沖 小良ヶ浜灯台から真方位088° 5.4海里付近 （概位 北緯37° 22.0′ 東経141° 09.0′）
事故等調査の経過	平成26年6月27日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（仙台事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーモーターボート ^{エイチアールエム} HRM、19トン
船舶番号、船舶所有者等	235-23033東京、株式会社HRM
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士・特定
死傷者等	なし
損傷	なし
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか1人が乗り組み、福井県福井港に回航する目的で茨城県霞ヶ浦のマリーナを出発し、茨城県神栖市波崎漁港^{かみす}で燃料を満量となる約700ℓ補給した後、平成26年6月24日14時00分ごろ同漁港を出港して北進した。</p> <p>本船は、乗組員がフライングブリッジで操船し、小良ヶ浜灯台東方沖を約10ノットの対地速力で北進中、回転数が急激に低下した後、左舷主機が停止したので、船長が、燃料タンクを確認したところ、燃料が不足していることに気付いた。</p> <p>船長は、右舷主機は作動していたものの、燃料が欠乏すれば、右舷主機も程なく停止するであろうし、貨物船などが通航する場所でもあったので、緊急時に右舷主機を使用できるようにしようと思い、22時12分ごろ、右舷主機を停止し、携帯電話で118番通報を行って救助を要請した。</p> <p>本船は、来援した巡視艇から燃料補給を受け、巡視艇に伴われ、自力航行して福島県いわき市小名浜港に入港した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 1</p> <p>海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期</p>
その他の事項	<p>本船は、左右両舷に燃料タンクを1個ずつ備えていたが、両舷の燃料タンクを右舷主機及び左舷主機で共用していた。</p> <p>船長は、本船の売却先から回航業務を依頼され、売却先や船舶所有者に聞くなどして本船の燃料タンクの容量を調査したが、不明であり、燃料タンクの外形寸法から約2,000ℓであろうと思っていた。</p>

	<p>船長は、本インシデント後に燃料補給を行った際、本船の燃料タンクの容量を確認したところ、約1,000ℓであることが分かった。</p> <p>本船は、下部操舵室に燃料計があったが、フライングブリッジにはなかった。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、小良ヶ浜灯台東方沖を北進中、船長が、本船の燃料タンクが満量で約1,000ℓであったものの、約2,000ℓであろうと思ひ、両舷の燃料タンクを共通にして航行を続けていたところ、燃料が不足して左舷主機が停止したことから、航行を断念し、運航が阻害されたものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本インシデントは、夜間、本船が小良ヶ浜灯台東方沖を北進中、船長が、本船の燃料タンクが満量で約1,000ℓであったものの、約2,000ℓであろうと思ひ、両舷の燃料タンクを共通にして航行を続けていたところ、燃料が不足して左舷主機が停止したため、航行を断念したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長距離の航海を行う際は、燃料タンクの容量及び時間当たりの燃料消費量を正確に把握した上、適切な航海計画を立案し、十分な量の燃料を搭載すること。